

新電元工業株式会社

2026 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答要旨

Q. パワーデバイス事業の営業利益が売上増を上回った要因は？

A. 前年同期比で売上高は約 10 億円増、営業利益は約 17 億円増となった。全社営業利益 WF*に示されている通り、同事業における構造改革効果が寄与したほか、一過性要因や棚卸評価損の減少の大部分が同事業によるものであり、売上増以上の利益増につながった。

[※決算説明会資料 9 ページ参照](#)

Q. (全社営業利益 WF*における) 為替・製品 MIX の影響について説明してください。

A. 為替の影響はパワーユニット事業が中心で、特にアジア通貨の動向が大きい。今期上期はアジア通貨安が進み、利益面ではネガティブな影響を与えた。製品 MIX についても同事業の影響が大きい。

[※決算説明会資料 9 ページ参照](#)

Q. パワーユニット事業が第一四半期から第二四半期にかけて増収減益となった要因は？

A. 第一四半期から第二四半期にかけて売上は増加したものの、第二四半期に品質保証関連の一過性費用が発生したことや製品 MIX の変化により利益率の低いものが増えたことで営業利益が減少した。

Q. 新電元インドの売上高 140 億円のうち、パワーユニットの売上はどのくらいあるか？ また第二工場の規模感は？

A. 現在第一工場ではパワーユニット製品のみを製造しているため、売上高約 140 億円の全てがパワーユニット事業によるもの。第二工場は第一工場と同程度の面積規模および生産能力を想定。2030 年にはインド第一・二工場全体で現状の売上高（約 140 億円）の 1.5～2 倍の売上規模を目指している。

Q. インド第二工場の規模感は？

A. 第二工場は第一工場と同程度の面積規模および生産能力を想定。2030 年にはインド第一・二工場全体で現状の売上高（約 140 億円）の 1.5～2 倍の売上規模を目指している。

Q. ベトナムの内燃車両乗り入れ規制の影響と対応策は？

A. 規制内容がまだ不透明なため、今後の動向はベトナム政府の見解を注視しながら対応していく方針。アジアでは規制の動向が変わる可能性もあり得るため、動向を見ながら PCU の生産面も含めて精査していく。(本規制に関わらず ASEAN 地域における二輪車市場は飽和状況のため、新たな市場開拓として) 成長市場と位置付けるインドにおいてローカルメーカーへの拡販を進めて売上を確保する。

※内容につきましては、ご理解いただきやすいよう加筆・修正および順序の入れ替えを行っています。